



木下小だより「あすなろ」

令和 5 年
1 月 24 日号
(第 16 号)
印西市立木下小学校
児童数 236 名

大寒の日を過ぎてから、厳しい寒さが続いています。朝の登校時に、プールに氷が張っていないか確認する子ども達や、登校途中に氷が張っているのを見つけたことや家の車の窓が凍っていたことを話してくれる子ども達もいます。



まだしばらくは寒い日が続くようですが、必ず春はやってきます。昔、理科の授業で 1cm にも満たない固い桜の芽を縦に裂いて中を観察したことがあります。すると、緑の部分が幾重にも重なり合っている様子（葉芽）、緑の中心がやや白っぽくなっている様子（花芽）を見ることができました。寒い冬の間に固い皮に包まれながら、中ではしっかりと花を咲かせる準備をしているのです。調べてみると、桜は夏には花芽ができて、冬の初めにいったん眠りに入った後（休眠）、真冬の寒さにさらされて花芽は目を覚まし（休眠打破）、その後の暖かさによって成長し花を咲かせるそうです。春にきれいな花を咲かせるためには、真冬に一定期間寒さにさらされることが必要なのだそうです。

さて、3 学期は現学年のまとめの時期であり、進級進学準備期間でもあります。春にきれいな花を咲かせるために、厳しい寒さの中、しっかり目を覚まし、一日一日を大切に目標に向けやるべきことに取り組んでほしいと願います。

親切・思いやり ～たてわり活動～

チャレンジ縄跳びの長縄跳びは、たてわり班で取り組んでいます。たてわり活動は、異年齢集団との関わりを通して、学校目標の「思いやりのある やさしい子」を育てることを目的として行っています。

限られた時間の活動ですが、同年齢の学級の中では見られない、心温まる微笑ましい場面を見ることが多くあります。低学年の子は、大きいお兄さんお姉さんと一緒に遊ぶことをとても楽しみにしています。高学年の子は、やさしい眼差しで相手にわかりやすいように声をかけています。そんな高学年のお兄さんお姉さんを、中学年の子は頼もしく憧れの気持ちをもって見つめています。たてわり活動の時間は、きつい言葉や汚い言葉は聞こえてきません。相手を思いやるやさしい言葉、楽しい笑い声が聞こえてきます。



言葉には力があります。やさしい言葉や思いやりのある言葉を発する時は、人の心も穏やかで優しい気持ちに満ちあふれています。そんなやさしい時間を大切にしていきたいです。

(校長 小林すみ子)

1 月 27 日（金） 授業参観、PTA 美化作業、1 年家庭教育学級

ご来校お待ちしております。

<活躍する卒業生>

冬休みの間、木下小学校の卒業生が活躍している様子が耳に入ってきましたので紹介します。（個人情報保護のため、紙面では個人名を割愛させていただきます。）

- 全日本バレーボール高等学校選手権大会（春の高校バレー）R5.1.4～1.8 開催
優勝校 駿台学園（男子）バレーボール部所属
- 全日本実業団対抗駅伝競走大会（ニューイヤー駅伝）R5.1.1 開催
第 6 区区間賞受賞 ※10000M 日本歴代 4 位記録保持者



日光連山<男体山> 1 月 19 日



気象条件が整うと、校舎から遠くに日光連山が見える日があります。朝日に照らされた男体山。来月には、6 年生が修学旅行で奥日光に宿泊します。